



慶應義塾大学ビジネス・スクール

医薬品業界に関するノート

- 1 医薬品業界の特徴 5
- 2 医薬品業界が直面する環境変化
- 3 医療用医薬品における後発品の位置づけ

1 医薬品業界の特徴 10

1-1 医薬品の特徴¹

医薬品は、その用途区別に「医療用医薬品」と「その他の医薬品」に大別されている²。医療用医薬品とは医師や歯科医師によって処方される医薬品であり、一般用医薬品とは患者が直接薬局や薬店などから購入し、自らの判断で使用するものである。 15

医薬品は情報の凝集であるとともに付加価値の高い生命関連物質であり、これを生産する医薬品産業は社会的貢献度の高い産業といわれている。

日本の製薬企業数は、およそ1,550社、うち主として医療用医薬品を製造している企業は約450社を数える。残り約1,100社は主に一般用医薬品の製造企業、または医療用医薬品、一般用医薬品の両方を製造している企業である³。 20

1993年の医薬品の総生産額は5兆6,951億円であり、内訳は医療用医薬品が4兆8,193億円、一般用医薬品が8,758億円である。医療用医薬品が約85%を占めており、日本の製薬産業にとっては医療用医薬品の生産動向が大きな意味を持っている。

製薬企業の利益率は概して高く、今日の経済状況下でも他産業に比べて安定しているが、1967年以来、おおむね2年に1回の薬価基準（薬価基準制度については後述）の引き下げや、ここ数年の医薬品の適正使用の強化により、生産額の伸びは低下してきている。新医薬品の承認審査の仕組みは資料3のとおりである。 25

1. 「平成7年版厚生白書」及び「平成9年版厚生白書」による

2. 資料1参照

3. 医薬品製造業の規模については資料2参照